

政策討議（Society5.0 関連：11 月 9 日・16 日）
共通重要課題に関する議論の主なポイント

1. データ連携基盤

(1) 各省・産業界からの説明

- 公共データの「オープン化」、契約ガイドライン等によるデータ流通・利活用の加速化
- データ・知財の円滑な利活用・不正な流通の防止に向けた法的担保、官民の標準化体制の強化
- 競合関係・業種等を越えたシステム間データ連携プラットフォームの整備
- セキュリティ基盤、データ流通・利活用を促進する制度
- グローバルなルール形成も含めた国際標準の獲得
- データ認証、データ提供を促進するインセンティブ
- 関係本部・関係省庁の役割を明確化した横断的連携
- データ流通の活性化に向けて、必要なデータを入手でき、安全・安心に使用できるルール・仕組みを官民が連携して整備、国境を越えたデータ流通の確保
- データ共有事業者の認定制度の創設や税制支援等によるリアルデータの共有・利活用
- 情報信託機能を活用したパーソナルデータの利活用促進

(2) 討議での主な意見

- レセプトデータなどのデータはあっても産業化への応用まで向かっていない。
- どういうデータ構造にするかなどの議論に多くの時間を消費するのではなく、取り組みの速度を重視して考えていかななくてはならない。作業を行いながら自動的に標準化が進んでいくことが良い。
- 最終的なビジョンを共有して、産業界を強力に巻き込みながら、できるところから具体的に取りかかる必要がある。
- 他国の動きを見据えて進めないと、結局ガラパゴス化してしまって負けてしまうことになるので、国際的な協力や共通化を考える必要がある。
- 協調領域、競争領域と分けて実施すべき。

2. 知財・標準化戦略

(1) 各省・産業界からの説明

- データ・人工知能利活用のための知財システム
- 知財の保護から共有による利活用拡大へ
- ソフトやシステムを重視する知財戦略への転換

(2) 討議での主な意見

- SIP、ImPACT などのプロジェクトでも技術ベース事業構築を進めているが、国際標準化、知財戦略、制度改革も一体的に推進していくべき。

3. 規制・制度、社会受容性

(1) 各省・産業界からの説明

- 規制改革・行政手続簡素化・IT化の一体的推進
- 「学」の産学連携インセンティブと自己資金の獲得を推進
- ベンチャーの自発的・連続的な創出の加速
- 規制の「サンドボックス」制度の創設
- Society5.0のコンセプトについて、国内外への周知・浸透
- 個人情報の保護を図りつつ国際的なデータ流通が円滑に行われる環境整備

(2) 討議での意見等

- 個人情報はセンシティブな分野だが、個人情報の提供によるメリットが分かりやすくなければならない。国民に対する理解活動は極めて重要。
- 個人情報やゲノム編集など、イノベーションには必ずこれまでの価値観を少し変えるところが出てくるので、何を犠牲にして何をとるのかといったことを議論していかなければならない。

4. 人材育成

(1) 各省・産業界からの説明

- 知財創造教育の推進
- 我が国が強い分野を支える拠点・人材への集中投資
- 人材育成プログラムの横断的連携・拡充、高度外国人材の受入促進、産学連携を通じた人材の流動性向上
- 児童生徒へのプログラミング教育、ネットワークの専門技術者育成、セキュリティ人材の育成
- 情報活用能力を備えた創造性に富んだ人材の育成
- 初中教育、高等教育から研究者レベルでの包括的な人材育成総合プログラムとして体系的に実施

(2) 討議での意見等

- 米国では、コンピューターサイエンスは、リテラシーとして、文系も含めて大学でしっかりと学んでおり、データに関するリテラシーが非常に強くなっている。
- 人材不足は、学校だけに頼るのは無理がある。社会人の再教育、資格制度なども必要。
- 人材不足であるが、教育の機会さえあれば、若い人間でも急速に育つ分野である。海外では企業により、サマースクールが行われたりしており、日本でも産業界が中心となってこういった取組を進めることが有効ではないか。
- 技術開発は進んでいるが、制度や法律などに落とし込んでいく仕組みが弱く、そういったことを議論できる人材が極端に少ない。

5. 基盤技術研究開発、その他

(1) 各省・産業界からの説明

- IoT/BD/AI プラットフォーム技術
- ICT、人工知能 (AI)、ビッグデータ解析技術
- 革新的光ネットワーク基盤技術
- 量子暗号基盤技術
- 量子技術を活用した超高速・高セキュリティな情報ネットワーク
- 量子コンピュータ技術等の革新的コンピューティング技術
- 超低消費電力・超高性能 AI プロセッサ
- 革新的センサ・アクチュエータ技術
- 革新的 AI エッジコンピューティング
- 革新的 AI ネットワーク基盤技術
- ブロックチェーン技術
- IoT 対応の認証基盤技術、サイバーセキュリティ対策技術
- 先端的な研究施設・設備

(2) 討議での意見等

- 日本はどうしても自前主義的な考え方になっている。どの部分を強みとし、どの部分は他から取り込んでいくのか、共通の認識と戦略を、海外も入れた形で考える必要がある。
- 国際的な動向や日本の立ち位置を意識して戦略構築をしなければならない。